

❷

「スラヴ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧地域）」は、非常に多くの魅力に満ちています。モスクワの街を歩いているとすぐに気が付くことですが、きわめて多様な民族の人がまじりあっています。ソ連という「帝国」の首都だったので、今でも一定の求心力があって、ロシア国内はもちろん、周辺諸国からも多くの人が集まってきます。そのソ連「帝国」の在り方は、今日の民族問題を考察するうえで、世界的にみても興味深い事例を提供しています。

　またこの地域は、1917年と1991年に大規模な体制転換、「革命」を経験しています。これらの革命はただの革命ではなく、世界史的大事件でした。革命論、体制転換論を考察するのに、これ以上興味深い地域は他にあるでしょうか。さらに、ソ連解体後も、2000年代に「色の革命」が生じ、2014年にはウクライナで、そして2020年8月ベラルーシで反体制デモがありました。

　ソ連解体後、新興独立諸国は、連邦制、準大統領制の憲法体制、複数政党制による競争選挙、議会制度など他国と共通する政治制度の導入を試みましたが、この試みがほとんどゼロから始まったがゆえに、諸政治制度を発生にさかのぼって考察することを可能にしているのもこの地域の特徴です。

　また、体制転換後、この地域の諸国は、民主制から個人独裁に近い体制まで、きわめて多様な政治体制を生み出しました。民主制はもちろん、非民主制のメカニズムを理解するためにもこの地域は有意義なのです。

　さらに、わが国には乏しいといわれて久しい、個性的な政治指導者を（レーニン、スターリンからゴルバチョフやプーチンまで）この地域は輩出してきました。政治的リーダシップの問題を考えるうえでも、この上なく興味深い地域です。

　そして、国際政治の上では、20世紀国際政治史はソ連抜きに語ることはできません。今日でも、再び地域大国として台頭しつつあるロシアが、世界政治を揺るがすところを、ウクライナやシリアで目撃してきました。ロシアは、国際関係の色々な場面――軍備管理から資源外交、未承認国家問題、対テロ戦争に至るまで――に大きな影響を持っています。

　この研究会では、比較政治学・国際関係の様々な角度からこの地域の政治を考察していきます。政治学の主要任務の一つが他者理解であるとするならば、これほど興味深い地域はなかなかないのではないか、と私は思っています。学生の皆さんと一緒に、地域と政治に対する理解を深めていきたいと思います。

❸

スラヴ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧地域）の地域研究および比較政治学

❹

3年生14名、4年生13名

❺

他学部生可

❻

留学から帰ってくる学部生可、ただし「4年生から1年だけ」のような形は不可

募集時や面接時に海外にいる学生は教授に問い合わせをお願いします

❼

入ゼミの時点でロシアや旧ソ連地域の知識がなくても全く問題ありません！地域研究・比較政治学という手法を基礎から学びつつ、スラヴ・ユーラシア地域への理解を段階的に深めていくようなイメージです。

❽

文献購読→学生同士の意見交換（中心）＋先生からの講義

❾

久米郁男『原因を推論する』

久保慶一ほか『比較政治学の考え方』

エリカ・フランツ『権威主義　独裁政治の歴史と変貌』

塩川伸明『歴史の中のロシア革命とソ連』

小泉悠『現代ロシアの軍事戦略』

松里公孝『ポスト社会主義の政治』

駒木明義『安倍vs.プーチン』

➓

Twitter @ogushiseminar2

Instagram @ogushi\_seminar

連絡先：seijiandrei.obayashi@keio.jp